

■ 演題：知財ポートフォリオマネジメント – CASEの時代に向けて –

■ 日時：2021年12月9日（木）13：30～15：00

■ 講師：セイコーエプソン株式会社 VP事業戦略推進部 エキスパート 小嶋輝人氏（元 特許技術部長）

■ 略歴：湯浅電池（株）（現GSユアサ）膜事業部（プラント設計、技術営業）

クリエートメディック（株）開発部（医療機器開発）

セイコーエプソン（株）知的財産本部（知的財産）・ビジュアルプロダクツ事業部（開発戦略・事業戦略）

◆ インクジェットプリンターのインク、ヘッド材料、ソフト、インターフェース関係の出願・権利化業務

◆ Raymond Nyro訴訟（勝訴）、Acacia、Intellectual Ventures等のNPE係争等の係争・訴訟業務

◆ プロジェクター事業領域の出願・権利化 課長業務

◆ プロジェクター、ロボティクス、ウォッチ、半導体および水晶デバイス事業領域の出願・権利化 部長業務

◆ プロジェクター事業領域の開発戦略および事業戦略推進業務

■ 概要：◆ CASEの時代に向けた環境変化（マクロな環境変化）

既存の自動車業界構造を崩す異業種参入が知財障壁の重要度を増加させる

◆ セイコーエプソン知財部門の歴史

電機・精密機器業界における知財戦略模索の経緯

◆ 強い特許力の形成

競争優位性のもとになる強い特許ポートフォリオの目指す姿（特許クラスター）

◆ 有効な知財戦略

他社の技術開発の流れに影響を与える特許戦略の考え方（特許ステータスマップ）

◆ 他社の動向把握

競合または共創相手の動向を知るためのIPランドスケープ

◆ オープン＆クローズ戦略の実現

オープンイノベーション活動とBP活動の巧妙な仕掛け

◆ プロアクティブな事業貢献

先手の活動姿勢で活動の形骸化を防ぎ継続的な事業貢献を果たす

◆ 業界特有の事情と知財部門の規模に応じた考え方

障壁は特許だけで形成されているわけではない（小規模知財部の戦略）

